

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

平成 19 年度総会プログラム

5 月 24 日 (木)

会場：海峡メッセ下関（下関市）

<受付> 12:30～13:00

【開 会】 13:00～13:30 場所：9 階海峡ホール

開会挨拶	瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 会長	黒田 晋
	国土交通省九州地方整備局 局長	小原 恒平
歓迎挨拶	下関市長	江島 潔
来賓挨拶	国土交通省大臣官房技術参事官	林田 博
	山口県知事	二井 関成

【第 1 部】 13:30～14:00 場所：9 階海峡ホール

議 事

議長選出

- 1 号議案 平成 18 年度事業報告について
- 2 号議案 平成 18 年度決算報告について
- 3 号議案 平成 19 年度事業計画（案）について
- 4 号議案 平成 19 年度収支予算（案）について
- 5 号議案 平成 20 年度総会開催地について
- 6 号議案 役員の改選について

【第 2 部】 14:20～17:00 場所：10 階国際会議場

話題提供「国土形成計画の概要及び瀬戸内海の位置付けについて」  
国土交通省国土計画局 計画官 小野 憲司

円卓会議「瀬戸内海首長サミット」

司 会：国土交通省中国地方整備局 副局長 藤田 武彦  
参加者：会員市町村長、地方整備局幹部

5 月 25 日 (金)

瀬戸内・海の路 関門海峡船上講座 9:00～11:30

9:00 唐戸 2 号棧橋前集合  
「ヴォイジャー」号乗船

9:30 出航  
講 師：下関市史編集委員

梅光学院大学非常勤講師 安富 静夫 氏  
関門海峡にまつわる話を聞きながら関門海峡を船で一周、途中巖流島に上陸。

11:30 下船 解散

## 平成19年度総会報告

平成19年5月24日（木）山口県下関市海峡メッセ下関にて、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会平成19年度総会が開催されました。総会には瀬戸内海地域全体の更なる振興と発展を図るために近畿・中国・四国・九州の瀬戸内海沿岸各地から約120名の参加を受け盛大に執り行われました。

総会は二部で構成されており、第一部では平成18年度の活動報告及び平成19年度の活動方針等について審議を行い、第二部では会員市町村長、各地方整備局幹部に国土交通省幹部を交え円卓会議「瀬戸内海首長サミット」を行いました。



総会は協議会会長である黒田晋玉野市長（写真右）から「昨年度は協議会設立趣旨にたちかえり、活動指針を定め、さらなる連携強化を目指しております。瀬戸内沿岸の魅力をもっと有機的に結びつけ、新たな魅力を生み出すには当協議会の一層の活性化が重要です。」との開会の挨拶により始まりました。



続いて九州地方整備局小原恒平局長（写真左）から「協議会の活動を地域の皆様にもっと理解していただき、参画していただけるよう努力して参りたいと考えています。また、広域地方計画では、海の視点を加えることにより、広域的な活動が取り組まれると考えます。」との挨拶がなされました。

さらに地元江島潔下関市長（写真右）から「協議会で議論される様々な成果は、下関のまちづくりにも貢献すると期待しています。協議会を通じて全国、全世界へ情報発信が出来るような、すばらしい協議会になりますことを願いたします。」と歓迎の挨拶をいただきました。



来賓として参加されている国土交通省大臣官房林田博技術参事官（写真左）からは「各種イベントなど様々な分野の活動により、瀬戸内海の市町村が相互に連携し、豊かな魅力を活用した地域振興に積極的に取り組まれる貴協議会に、心より敬意を表します。」との挨拶をいただきました。

二井関成山口県知事（写真右）からは、「瀬戸内海は観光やレジャー等大きなポテンシャル有し、県民にとってかけがえのない財産であり、この財産を次世代に引き継ぐために必要な施策を効果的に実施して参りたいと考えます。」との挨拶をいただきました。



## 第一部 議事について

議長に選出された**藤田忠夫**宇部市長（写真右）の議事進行によって平成 18 年度の活動報告及び平成 19 年度の活動方針など 6 議案について審議・議決され、次回平成 20 年度の総会は八幡浜市で開催すること。また、新会長に江島潔下関市長が選任されました。



## 第二部 円卓会議「瀬戸内海首長サミット」について

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会は、新たな文化の創造、観光、レクリエーションの振興と発展を図ることを目的として設立され、以降これまで、様々な取り組みを実施し、その存在意義はますます高まりつつあります。

折しも、国土形成計画については、平成 19 年度中に全国計画が策定され、引き続き広域地方計画が策定されていくこととなっています。広域地方計画は、地方において、都道府県や国の地方支分部局、地元経済界等が対等な立場で協議し策定する計画として位置付けられ、市町村の意見も反映されます。したがって、協議会の設立趣旨や活動指針を反映できる絶好の機会となります。



そこで、まず、国土交通省国土計画局小野憲司計画官（写真左）より、「国土形成計画の概要及び瀬戸内海の位置付けについて」と題して、新しい国土計画の枠組み、国土形成計画の概要、海を介した交流、地域おこしについて話題提供をしていただきました。

その後、市町村会員（各首長）、国会議員（地方整備局幹部）に国土交通省幹部を交え、中国地方整備局藤田武彦副局長（写真右）の司会進行により円卓会議形式で、地域の特色や取組を紹介しながら、観光や物流、防災など、地域の連携や振興について意見が交わされ、国土形成計画への期待や瀬戸内海における協議会の役割について議論を行いました。

最後に、自立的に地域のあり方を考えるべく、国土形成計画における瀬戸内海の位置づけについて、協議会の設立趣旨や活動指針に基づいた以下の提言を決議しました。





大竹市長  
入山 欣郎氏



中国地方整備局  
副局長  
大久保 仁氏



中国地方整備局  
副局長  
藤田 武彦氏



玉野市長  
黒田 晋氏



近畿地方整備局  
副局長  
片桐 正彦氏



泉大津市長  
神谷 昇氏



光市長  
末岡 泰義氏

宇部市長  
藤田 忠夫氏



下関市長  
江島 潔氏

九州地方整備局長  
小原 恒平氏

苅田町長  
吉廣 啓子氏

八幡浜市長  
高橋 英吾氏

小松島市長  
稲田 米昭氏

四国地方整備局  
次長 東 俊夫氏

小豆島町長  
坂下 一朗氏



# 瀬戸内海首長サミット参加者

国土交通省港湾局  
技術参事官 林田 博氏

国土交通省国土計画局  
計画官 小野 憲司氏



国土形成計画における  
瀬戸内の位置付けに関する提言

平成 19 年 5 月 24 日

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

瀬戸内は、古来よりわが国の発展に寄与し、独自の文化を築き上げてきた。特に瀬戸内海は、古くから海上交通の場として栄え、沿岸の各地域は、この海を拠りどころとして他地域との交流を深め、産業を興し、文化を花開かせてきた。

明治以降、陸上交通機関の発展に伴い、人々の生活は海から遠ざかってきたが、近年の海洋性レクリエーションの普及や海を中心としたリゾート開発等により、人々の海への関心が高まってくるとともに、人々の交通の路としても海を見直そうという機運も生まれつつある。

このような中で、瀬戸内海全体の歴史の重み、自然の恵みを活かすために、個々の地域が抱え持つ資源をさらに活用するとともに、多様な資源を持つ各地域が連携して「陸」、「海」、「島」をネットワーク化することによって、瀬戸内に新しい文化を育み、より快適な地域を創りだすことが可能と考えられる。

このような背景の下、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会は、瀬戸内海沿岸に位置する各市町村が一堂に会し、新たな文化の創造、観光、レクリエーションの振興と発展を図ることを目的として平成3年に設立された。以降これまで、様々な取り組みを実施してきており、その存在意義はますます高まりつつある。

折しも、国土形成計画については、平成19年度中に全国計画が策定され、引き続き広域地方計画が策定されていくこととなっている。これまでの計画が国主導で作成するものあったのに対し、広域地方計画は、地方において、都道府県や国の地方支分部局、地元経済界等が対等な立

場で協議し策定する計画として位置付けられている。すなわち、各地方自治体が、自立的に自らの地域のあり方を議論していくものであり、広域地方計画の策定は、当協議会の活動内容を反映させる絶好の機会となる。

特に、近畿圏、中国圏、四国圏、九州圏においては、地域のあり方を考える上で、瀬戸内海をどのように捉え、どう活かしていくかが非常に重要となる。当協議会では、平成 18 年度の総会において、先述の設立趣旨に立ち返り、瀬戸内の更なる発展のために今後の活動指針として以下の事項を決議した。当協議会の設立趣旨と広域地方計画の策定意義を踏まえ、本活動指針を反映した広域地方計画が策定されることを願うものである。

- ①高速海上交通時代に対応した今日的意義のある「海の路の構築」並びに地震、津波に対応した防災ネットワークの整備
- ②失われた干潟、藻場の再生や災害、荒廃によるはげ山の修復等の瀬戸内海的环境創造
- ③瀬戸内海の景観、歴史、文化、食、街並み等インバウンド観光時代における瀬戸内の魅力発信